

ふきの芽

第289号

【発行日】
令和3年
3月25日

【発行者】
八俣ふきの芽会
茨城県古河市
山田 317-3
Tel 090 2234 6965
Fax 0280-78-2429



恐竜時代から咲き続けているモクレンの花

3月に入り暖かさが増し草木が鮮やかな花を開き始めた。毎年大きな紫の花を開き道行く人々に憂いを与えてくれているのは小立野第二行政区の田部井さん宅の紫木蓮である。写真上2月14日撮影

ものの本によると、モクレンは世界最古の花と言われ、恐竜時代から存在していたという。因みに花言葉は「自然への愛」。葉よりも先に大きな花をつける姿が自然への愛を感じさせる

とされている。同じモクレン科の辛夷(コブシ)も真っ白な花を雑木林の各所で花開き春の訪れを告げている。写真左桜の蕾も膨らみ八俣の大地も爛漫の春へと...



人に愛されること。人に褒められること。
人の役に立つこと。人から必要とされること。
沼田学校長は式辞の中で 大山泰弘氏(日本理化学工業会長)の言葉を引用し、卒業生に饒の言葉とした。

八俣小学校で令和2年度卒業証書授与式が行われ、65人が巣立つ

3月19日(金)古河市立八俣小学校で令和2年度卒業証書授与式が行われた。コロナ対策のため来賓や保護者の参加は無かったが、卒業生は学校長から一人ひとりが卒業証書を授与され顔を紅潮させていた。卒業生は男子30人、女子35人、合計65人であった。式辞の中で沼田学校長は6月から始業となった異例の新学期であったが、それぞれが「やさしい子」「まなぶ子」「たくましい子」という「やまたっ子」を目標に、逞しく育ち感無量であったと述べ、知的障害者の雇用を力を入れた内閣総理大臣表彰をはじめ大きな社会評価を受けている大山泰弘氏の言葉を引用し、卒業

生に饒(はなむけ)の言葉として。卒業生からは記念品として会議用テーブル2台、折りたたみ椅子10脚、来賓用スリッパ30足が贈られた。なお、卒業生には祝い品として、古河市から卒業証書人、PTAの皆さんからは英和辞典が贈られた。その後、正面ステージ前に整列した卒業生から「門出の言葉」として「や・ま・た」の心を胸に旅立ちます」と力強い決意が述べられた。「校歌」「旅立ちの日」「さようなら、在校生からはビデオによる熱いエールが贈られた。保護者代表の謝辞により厳かに卒業式は終了したが、卒業生保護者の発案により、コロナで中止となった八俣小まつりの「風船飛ばし」を皆でやるうというので、先生や



搭乗後に記念撮影。コロナ禍の中、笑顔が溢れる



気分爽快、最高だった！ ふんわり熱気球搭乗体験 八俣小で理科の学習4年生

2月22日、八俣小学校で理科の学習の一環として熱気球搭乗体験が行われた。「もの温まり方」の実験は、「古河バルーンクラブ」の方々の指導の下、行われ、4年生全員が代わる代わる搭乗した。感想を聞くとき「気持良かった」と答えであった。貴重な体験であった。



入場する卒業生の皆さん ▲



思いを込めて親子で風船飛ばし

クリーンアイ

大きく羽ばたけ やまたっ子
孫が中学卒業時に記念品として古河市の木「花桃」の苗を買ってきた。しばらくは放置したままになっていたが折角の卒業記念樹を粗末にしてはいけないと庭の片隅に植えた。その花桃の木が今年で4年目となり、庭の一角をピンク色に染めて春の到来を告げている。「桃」栗3年柿8年」とはよく言ったもので3年後に大きく育ち4年目の今年には東京住まいの孫もビックリするほどに咲き誇っている。孫はまだまだ花は咲きそうにないが、夢に向かって修行中である。

コロナ対策で例年とは比較できない程厳しい態勢で卒業式を迎えた八俣小学校の校長室で校長先生がポツリと呟いた一言が心に染みわたった。「私たちに代わって毎年の行事だが、今年卒業する児童にとっては一生に一度の大切な日である。何としても心に残る卒業式にしてあげたい」と。一步、式場に入ると先生方や保護者の皆さんの熱い思いが肌に伝わってきた。

コロナ対策をしっかりと施した会場には、下級生からのお祝いの言葉が所狭しと並んでいる。「卒業おめでとうございます、中学生になってもがんばってください」「お世話になりました」「いろいろ教えてくれてありがとうございました」などなどありがとうございました。などなど先輩、後輩の絆はコロナの渦中でも健在である。やまたっ子ここにありである。見送れない下級生の心からのエールである。

6年間の思い出のアルバムやビデオ。綺麗に並んだ花壇。花飾りで彩られた玄関。などなど、先生方や保護者の皆さんの温かい心遣いに包まれて、例年に勝るとも劣らない素晴らしい卒業式に卒業生たちはチョッピリ不安な気持ちのぞかせながら、希望に満ちた笑顔で風船を高く放ち巣立っていった。

非日常の中でも元気いっぱい大きな声で挨拶をしながら、勉強に力づくりに励む子供たち。笑顔に満ちているやまたっ子に元気を貰う。子供たちを指導してくれる教職員の皆様へ感謝、感謝でいっぱい。



ホームの皆さんは初めての体験に大喜び
小学生の組み体操に思わず拍手を送る ▲

3月4日(木)八俣小学校と、老人ホームみどりの里で、恒例の交流会が開かれた。この交流会は12年前から続けられている行事であるが、昨年はコロナ対策のため休止となってしまうが今年には是非実現させたいという「八俣小」と「みどりの里」の関係者の熱意が実現したものである。リモート交流会はソフトバンクのクラウド会議サービス「ズーム」を使用して行われた。開始時は音声にトラブル



活弁やまた

コロナに負けるな！今年はオンラインで交流会

みどりの里入居者にエール、八俣小学校5年生

そしてプレゼント交換では小学生からは「手作りクッキー」が贈られ両方の会場からは歓声が上がっていた。コロナ禍で直接ふれあうことができなかった交流会であったが、双方の参加者からは貴重な体験ができた、元気が貰えたなど、数多くの声が聞かれた。交流会は正午前に終了した。今回の交流会では家族との面会がコロナ対策で許可されない施設の入居者にとっては大きなプレゼンとなった。



▲ 手作りクッキーが届き大喜びの生徒たち

を抱えてしまったが、修正して交流会は始まり、小学校の生徒も施設の高齢者も初めての体験に興奮を抑えきれない様子であった。当日の参加者は、小学校が5年生62人、みどりの里が60人であった。5年生からは最初に学校紹介やプチ自慢発表があり、その後の〇×クイズでは大盛り上がりであった。みどりの里からは皆で「春よこい」の合唱やリハビリ体操「パブリカ」写真右上、左下が行われ、小学生も一緒に体操をやり楽しんだ。小学生のピアノ演奏や校歌合唱は施設の皆さんの心に染み入るものであった。



3月15日(月)八俣小学校周辺で登校中の児童の安全を守るため古河市青少年相談員三和支部八俣学区の皆さんが立哨活動を行っていた。写真左、週の初めとあって、ふきの芽会、八俣小PTAの皆さんも登校時間に合わせて立哨を行っており、児童の安全確保に地域ぐるみで汗を流していた。青少年相談員連絡協議会は古河市生涯学習課が所管する団体

- ### 八俣地区青少年相談員
- (八俣小学校区)
- 並木 茂雄 大綱・米倉 (三和支部長)
 - 鶴見 厚 南・笹原
 - 高瀬 恵則 清水
 - 風見 久男 中里・新々田
 - 初見 政男 赤松
 - 湯本 壽子 沼影・沼影2
 - 初見 周一 福原・小立野
 - 荒川 篤志 小立野2
 - 大久保 幸男 谷貝
 - 山田・かし山
 - 長左工門新田

で、古河、総和、三和支部の青少年相談員により構成されている。古河市青少年センターや古河警察署なども密に連携を保ち、市内の青少年の健全育成を担っている。年間の活動内容

- ・定期街頭パトロール
- ・未成年者喫煙防止活動
- ・地域の夏祭り、盆踊り等の会場周辺パトロール
- ・その他、学校行事ほかの支援などを行っている。

県レベルでの研修会にも参加しスキルアップを図っており、現在、八俣地区では9人の皆さんが各行政区の推薦を受け活動を行っている。

3月18日(木)総和庁舎で古河市コミュニティ推進協議会会長会議が開かれた。

コロナ禍の中での「コミュニティ活動の在り方を、学習、探求する

古河市コミュニティ推進協議会 会長会議

1. 報告事項として新規コミュニティ設立団体の紹介
2. 令和2年度事業及び収支報告
3. 推進協議会、来年度会長について

1. コロナ禍でも行える地区コミュニティ活動について
2. 地区コミュニティ助成金の支出基準について
- ①事務手続きの変更点
- ②コミュニティ活動の内容調査

等について協議が行われた

新規コミュニティとしては古河市行政自治会第一地区に「わたらせ」という名称で令和2年10月17日に組織が発会した。

第一地区は古河第一小学校区を中心に36の自治会があり数々の文化財や歴史的文化施設が存在する。

会員数は7700人余りなお、古河市で18番目のコミュニティ組織の誕生だ。

地域内にある問題と課題を英知と行動と柔軟さをもって解決にあたり、地域の活性化を図る事を目標としている。

第七地区も令和2年12月6日、19番目に設立された。

団員募集!!

三和スターズ復活!

いっしょに野球をやろうよ!!

お待たせしました

4月10日(土)午前9時から東山田公園で体験イベントを開催します

どなたでも参加できますので是非来て下さい。参加者にはプレゼントあり!

連絡先 代表者 西川光男(前スターズコーチ)
TEL 090 2670 4544

事例

運営や会議

- ・書面表決や委任状を活用
- ・広いスペースで蜜を回避
- ・ラインやズームの活用
- ・会議時間の短縮
- ・会費などの徴収
- ・実施できる事業が少ないため徴収しなかった

情報発信

- ・ラインを活用して周知
- ・メールを活用した
- ・広報誌掲載の地域情報を多く
- ・発信した

イベント関連

- ・開催場所を分散し蜜を回避
- ・事前申し込みで参加者を調整
- ・飛沫感染を防ぐため歌唱プログラムを控え、時間を短縮
- ・パネル展示やDVDを活用
- ・弁当やお菓子を持ち帰りに
- ・草刈り等を全体から個別に
- ・緊急時の分散避難を検証
- ・屋内イベントを屋外に変更
- ・蜜を避けてラジオ体操実施
- ・高齢者向けに体操動画配布
- ・高齢者宅の見回りを戸内に入らずに訪問
- ・電話での確認
- ・に切り替えた
- ・敬老会はお祝いの品を各家庭に届けた
- ・手作りマスクを提供した

などの事例を紹介し各団体の創意工夫を促した

令和2年収支決算報告書

	予算額	決算額
収入の部		
合計	1479,000	749,550
支出の部		
合計	147,9913	6,566
収入総額		749,550
支出総額		6,566
差引合計		742,984
次年度繰越金		742,984

コロナ禍でも行える地域コミュニティ活動